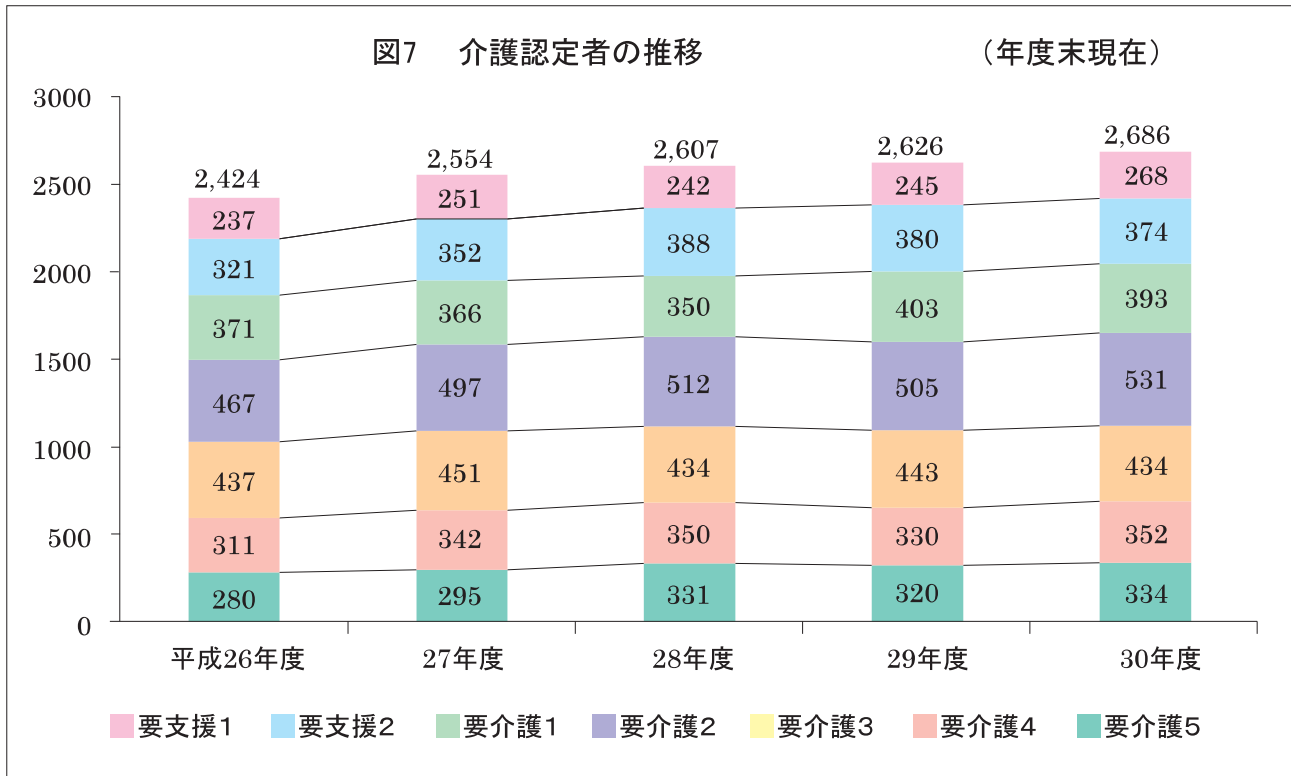
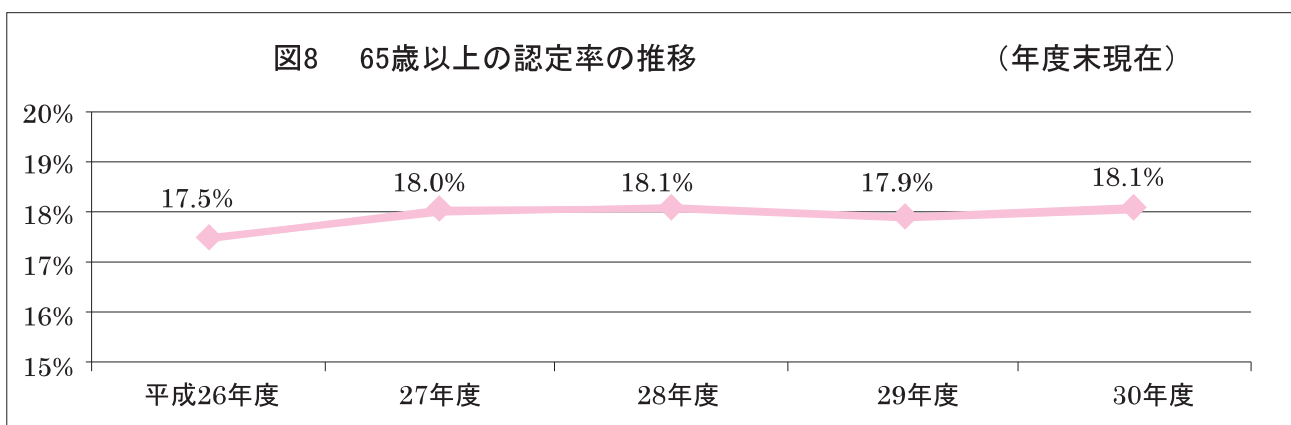


要介護・要支援者状況

介護認定者は年々増加し、平成26年度は2,424人でしたが、平成30年度は2,686人となっています。認定率についても17.5%から18.1%に増加しています。中でも介護度2、介護度3の増加が目立ちます。



<資料：みどり市介護高齢課>

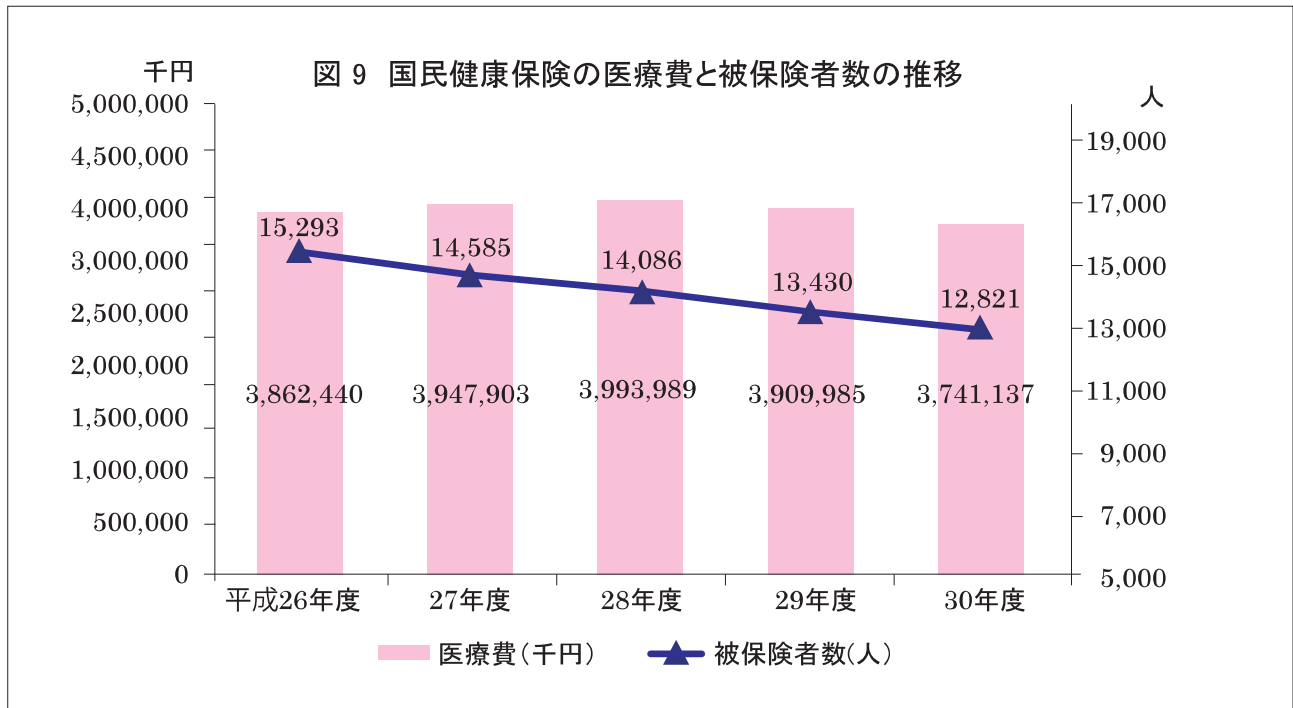


<資料：みどり市介護高齢課>

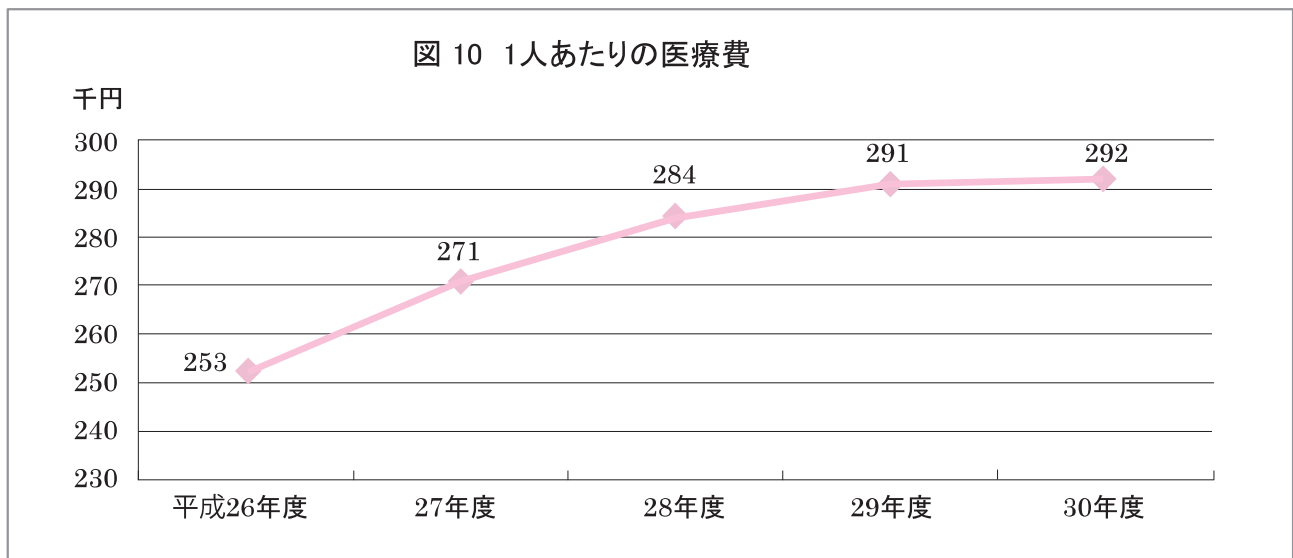
診療状況

みどり市国民健康保険の被保険者数及び、医療費において減少傾向にあり、平成30年度は37億4,114万円となっています。

また、一人あたりの医療費は増加傾向にあり、平成26年度は25万3,000円でしたが平成30年度は29万2,000円となっており年々増加しています。



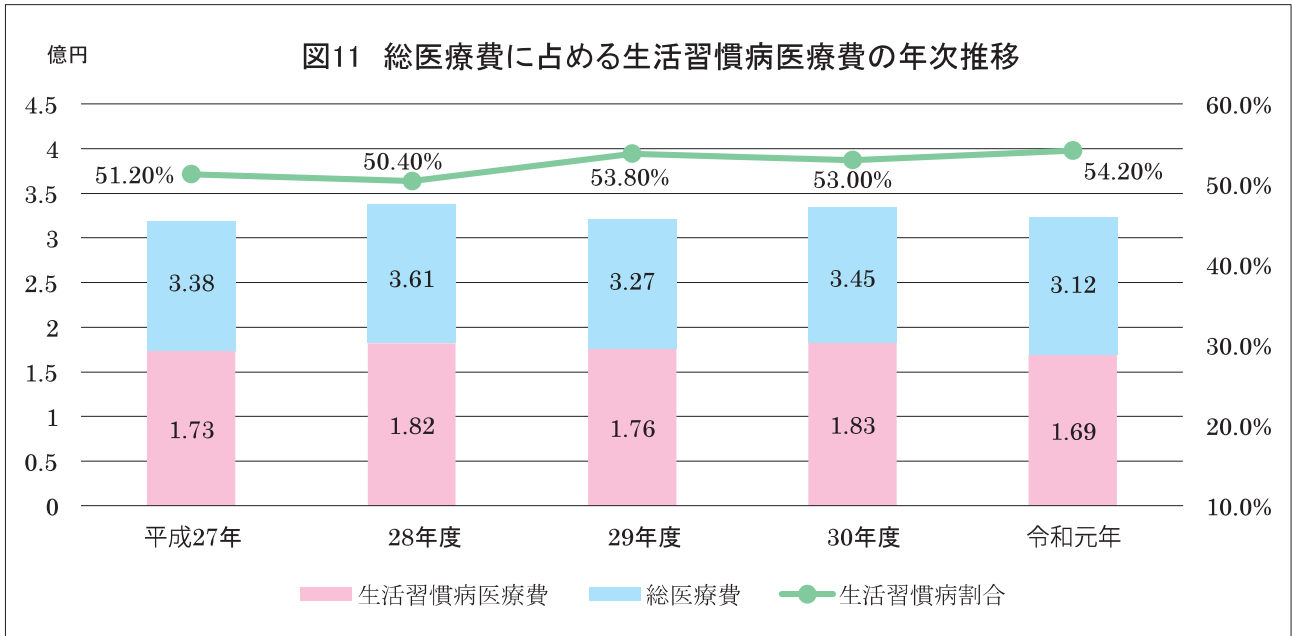
<資料：みどり市市民課>



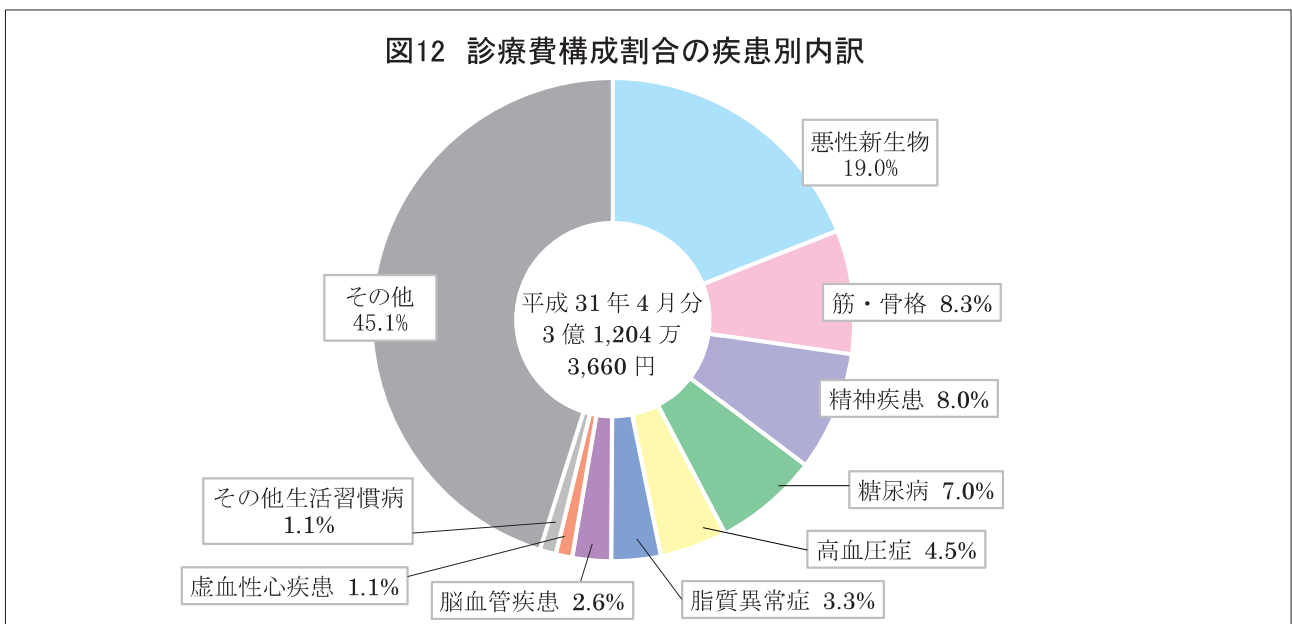
<資料：みどり市市民課>

生活習慣病の医療費

平成 31 年の 4 月診療分国保疾病分類では総医療費に占める生活習慣病の医療費は 54.2%であり約半数となっています。生活習慣病の中で診療費の多い疾患は悪性新生物 19.0%、次いで筋・骨格 8.3%、精神疾患 8.0%となっています。



<みどり市平成 31 年 4 月診療分国保疾病分類別統計>
(医科・歯科の診療報酬明細書による)



<みどり市平成 31 年 4 月診療分国保疾病分類別統計>
(医科・歯科の診療報酬明細書による)

第2部 各年代の健康づくり基本計画

第1章 評価の概要

評価指標と目標値

計画に定めた数値目標について、評価を行いました。

数値目標の状況は下記のとおり、評価項目 83 項目のうちA判定は 9 項目で 10.8%、B判定は 21 項目で 25.3%、C判定は 42 項目で 50.6%でした。目標値を達成している及び目標値に近付いている項目が全体の 36.1%を占め、50.6%が目標値から遠ざかっていました。

分野	項目数	判定			
		A	B	C	—
1 乳幼児期 (0 歳～ 5 歳)	27	7	8	3	9
		25.9%	29.6%	11.1%	33.4%
2 学齢期 (6 歳～ 15 歳)	12	0	4	8	
		0%	33.3%	66.7%	
3 青年期 (16 歳～ 39 歳)	12	1	6	3	2
		8.3%	50.0%	25.0%	16.7%
4 壮年期 (40 歳～ 64 歳)	17	0	1	16	
		0%	5.9%	94.1%	
5 熟年期 (65 歳以上)	15	1	2	12	
		6.7%	13.3%	80.0%	
総合計	83	9	21	42	11
		10.8%	25.3%	50.6	13.3%

【評価判定基準】

- A・・・既に数値目標を達成している場合（さらに推進をめざす場合）
- B・・・数値目標は達成していないが、数値が前回と同じか目標に近づいている場合
- C・・・数値が目標値から遠ざかっている場合
- ・・・目標値を設定していないなど、現時点で評価できない場合

第2章 乳幼児期（0歳～5歳）

乳幼児とその家族のみなさんへ

健やかなところとからだの基礎をしっかりとつくりましょう

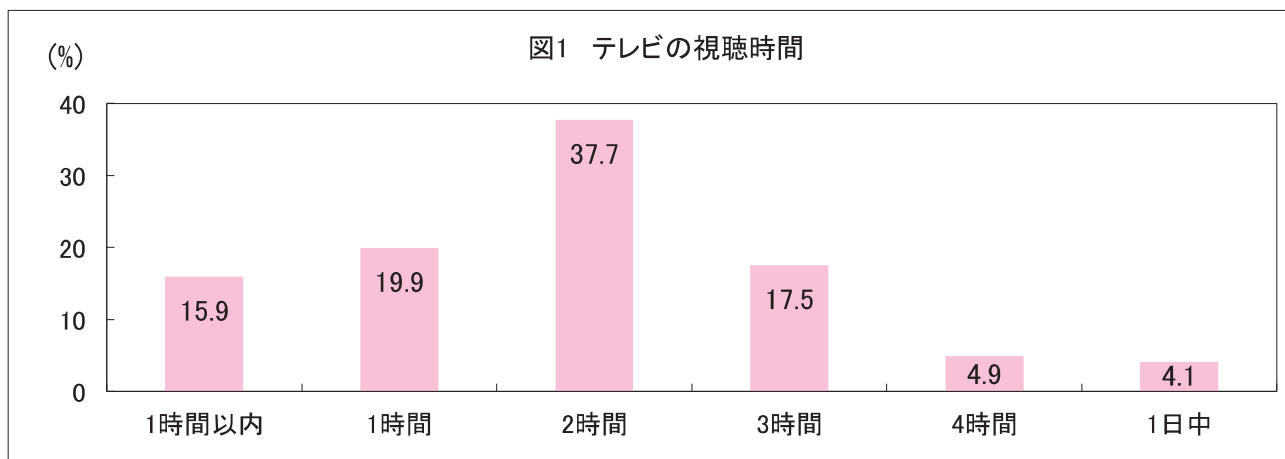
これまでの市の取り組み

生活	<p>食事、睡眠、遊びなどの規則正しい生活リズムは、子どもの健全な生活、成長へ大きく影響を与えます。乳幼児健康診査や乳幼児相談、パパママクラス等の健康教育を通し規則正しい生活リズムの大切さについて呼びかけを行いました。保育園や幼稚園では、園だより等で早寝早起き朝ごはんの大切さを伝えました。</p> <p>安全な遊び場・交流の場として、子育て支援センターの利用を周知しました。</p>
栄養	<p>パパママクラスでは妊娠中からバランスのとれた食事の大切さについて、知識の普及に努めました。乳幼児健康診査や乳幼児相談、離乳食実習、おやつ教室等で離乳食から幼児食への進め方や、食事の大切さを呼びかけました。また、乳幼児期の食事の悩みなどに対しては栄養士が個別相談を行いました。保育園や幼稚園では、しっかりと噛んで食べられる食材の工夫や食物アレルギーのあるお子さんへの食事等の対応を行いました。</p>
健康	<p>妊娠届出時、パパママクラス、乳幼児健康診査等において、喫煙や受動喫煙の影響を周知し禁煙を呼びかけました。</p> <p>パパママクラスでは歯科医師・歯科衛生士による指導を行い、妊娠期からのむし歯予防、歯と口の健康の大切さについて周知しました。乳幼児健康診査では乳児期から発達段階に応じた歯科指導や幼児に対するフッ化物塗布を行いました。</p> <p>予防接種については、生後2か月までの家庭訪問で予防接種の必要性や効果、副反応について等の説明を行い正しい知識の普及啓発に努めました。また、乳幼児健康診査時には接種状況を確認し、望ましい接種時期や進め方について情報提供を行いました。</p>
育児	<p>産後の母子に対する家庭訪問、乳幼児相談等を実施し、育児不安や心配事解消への支援を行いました。また、身近で気軽に相談できる場所として、保健センターや子育て支援センターの活用を周知しました。</p> <p>支援の必要な乳幼児について保育園や幼稚園、こども課等の関係機関や地域の母子保健推進員と連携をとり家族状況や発達等を確認し、必要なサービスや情報提供を行いました。</p> <p>こども課や関係機関と協力し、虐待予防や虐待の早期発見と支援に努めました。</p>
事故防止	<p>事故防止については、乳幼児健康診査等でチェックリストやパンフレットの配布を行い、転倒転落・誤嚥・誤飲・火傷等の事故防止について周知しました。</p>

現状と課題

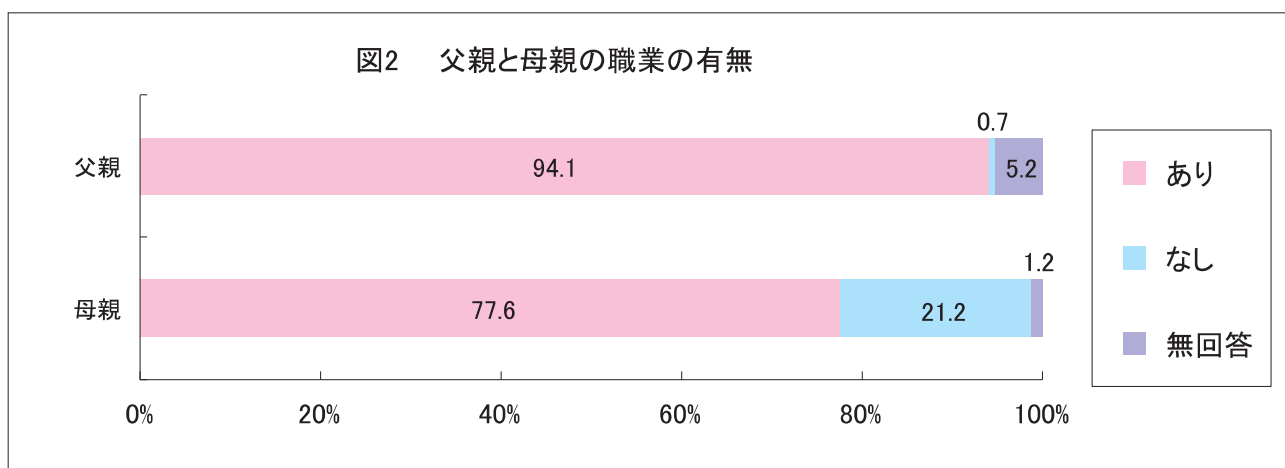
●生活

- ・乳幼児健康診査時アンケートで7時台までの起床の割合は、90.3%となっています。21時台までの就寝の割合は、83.2%となっています。
- ・テレビの視聴時間は2時間と答えた人が多くみられますが、2時間以上見ている子どもを合わせて64.2%となっています。(図1)



<平成30年度3歳児健康診査アンケート>

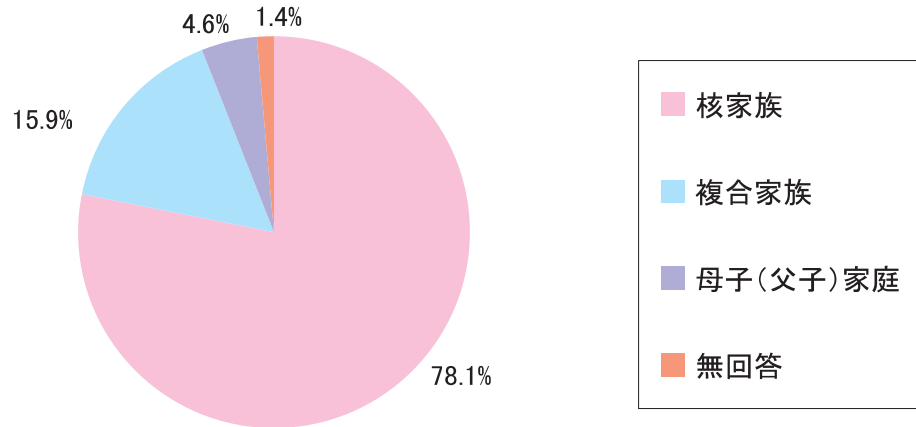
- ・子育て中の親の職業の有無について、父親は94.1%、母親は77.6%の人が仕事をしています。(図2)
- ・母親の職業について、前回の調査よりも会社員(正規)が増加し、専業主婦が減少しています。



<令和元年度みどり市健康・生活アンケート>

- ・子育て中の家族構成は核家族が78.1%、複合家族が15.9%、母子(父子)家庭が4.6%となっています。(図3)
- ・前回の調査よりも、核家族と母子(父子)家庭の割合が増加し、複合家族の割合が減少しています。
- ・核家族や共働き世帯が増加傾向にあり、時間に余裕のない育児環境であることが想定されます。

図3 家族構成の割合



<令和元年度みどり市健康・生活アンケート>

- ・生活リズムをつけることは、子どもの健やかな成長にとって大切です。早寝早起きの習慣を身につけていくよう、乳幼児健康診査や相談等において呼びかけていく必要があります。
- ・遊びは、良い睡眠をもたらすためにも、体力づくりのためにも、子どもの成長にとって意味あるもので大切なことです。食欲増進や健康づくりに効果的なことから、遊びについて体を動かす機会を増やしていくよう、助言していく必要があります。
- ・テレビを長時間見続けることは、視力低下や夜更かしなど生活リズムや発育・発達にも影響してきます。テレビやスマホ等メディアの視聴を控え、家庭内でのルールをつくる必要があります。
- ・普段の生活の中で、どのような状況でも事故は起こります。乳幼児期は特に保護者の気配りが大切になるため、子どもからできるだけ目を離さないようにしましょう。また、発達にあわせた事故防止や応急処置の方法について周知していく必要があります。

●栄養

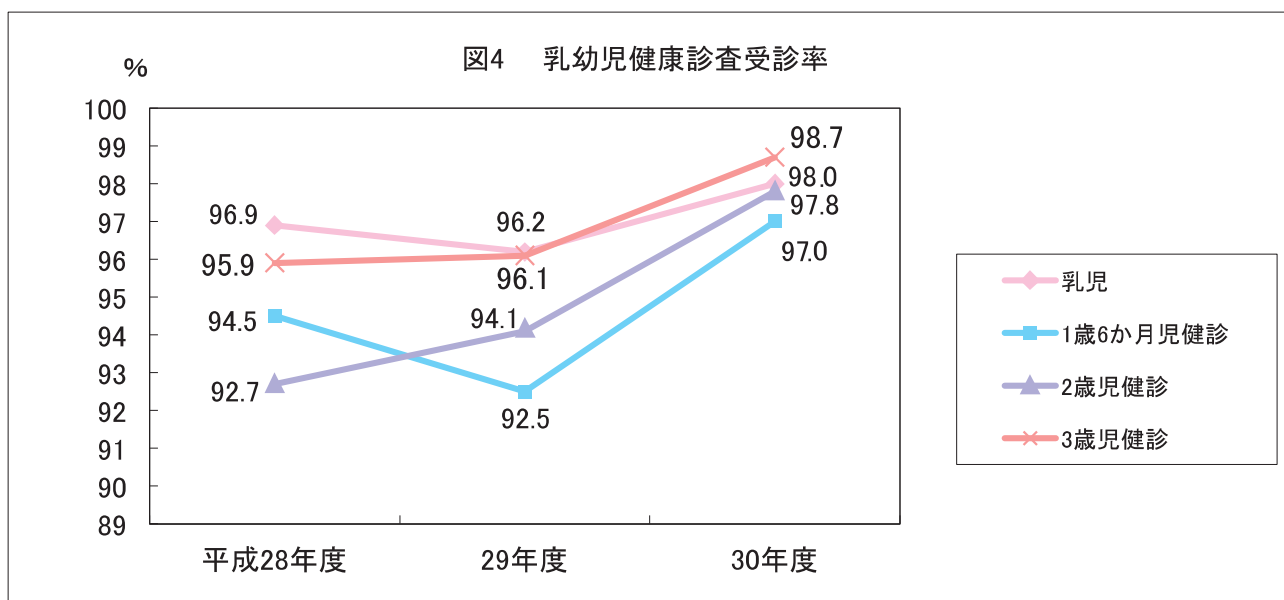
- ・朝食を毎日食べる子どもの割合は、乳幼児健康診査アンケートで 99.3%となっています。前回の調査よりも更に増加しています。
- ・おやつを決めていない人が、乳幼児健康診査アンケートで 10.6%となっています。前回の調査よりも減少しています。
- ・子どもにとって、朝食は元気いっばいに活動するためのエネルギー源であり、大きく成長するための栄養源でもあり大切なものです。今後の健康診査や相談等で朝食の必要性を周知し現状を維持向上していきます。
- ・朝食を食べる子の割合は増えていますが、乳幼児健康診査の聞き取り等から、栄養バランスに配慮した食生活やよく噛んで食べる習慣が実践できていない状況がうかがえます。成長に応じた食材の大きさや固さ、バランスのとれた食事を食べる習慣を身につけていく重要性を伝えていくとともに、離乳食・幼児食の進め方や具体的な調理方法について引き続き情報提供していく必要があります。併せて噛むことのメリットについての知識の普及も必要と考えられます。
- ・間食のだらだら食べは、食事時間への影響や肥満、むし歯の原因にもなります。間食の意味やとり方について情報提供していく必要があります。

- ・食物アレルギーについて、親が心配なことがありながら、正しい情報が十分伝わっていないことがあげられます。偏った食事を防ぎ、子どもの食事についての知識の普及や情報提供を行う必要があります。
- ・核家族や共働き世帯が増加傾向にあります。孤食を防ぎ、家族と一緒に楽しく食事をするものの効果について、呼びかけていく必要があります。

●健康

<健康診査>

- ・乳幼児健康診査受診率は、乳児で 98.0%、1 歳 6 か月児で 97.0%、2 歳児で 97.8%、3 歳児で 98.7%とすべて 90% 以上となっています。(図 4)
- ・乳幼児健康診査の受診率は増加しています。

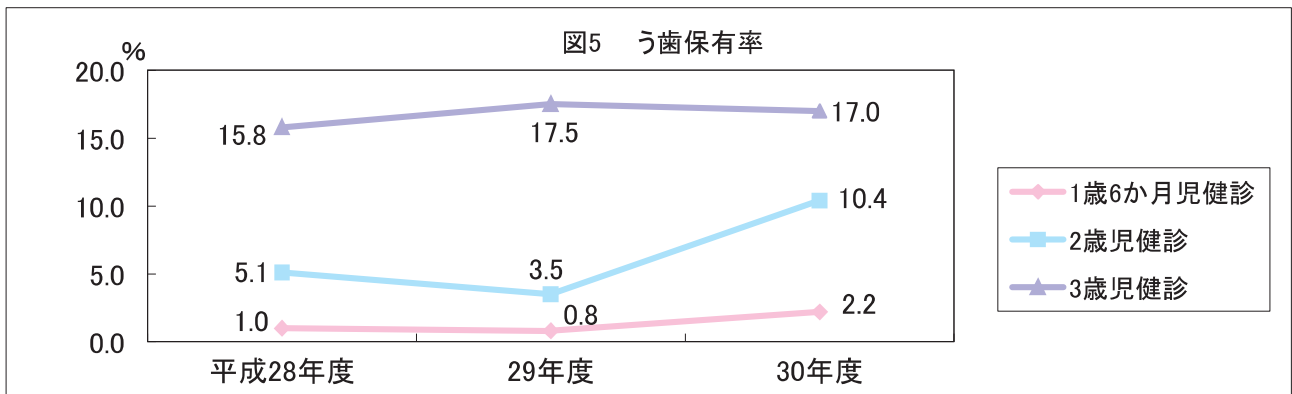


<平成 30 年度母子保健報告>

- ・未受診者について状況を把握して、対応を強化していく必要があります。
- ・訪問や乳幼児健康診査等の中で、発達支援の必要な子どもがいる場合、また親への育児支援が必要な場合は、保育園・幼稚園、医療機関などの関係機関と連携しながら、子どもの発育・発達に応じた支援を充実していく必要があります。

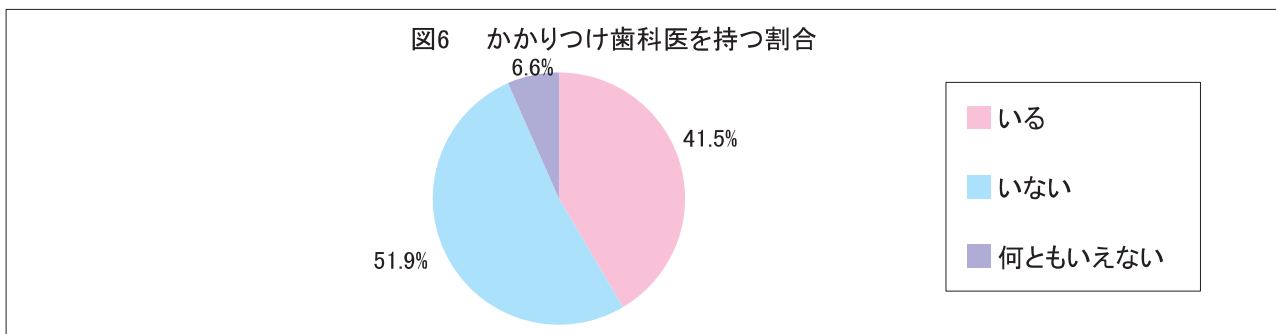
<むし歯（う歯）予防>

- ・う歯保有率（むし歯のある子の割合）については、1 歳 6 か月児で 2.2%、2 歳児で 10.4%、3 歳児で 17.0%となっています。(図 5)
- ・1 歳 6 か月児、2 歳児でう歯保有率が増加しています。



<平成30年度母子保健報告>

・かかりつけ歯科医を持つ割合は、41.5%となっています。(図6)



<平成30年度健やか親子21アンケート>

- ・1歳6か月児、2歳児のう歯保有率が増加しているため、生活習慣を含めた早期保健指導とフッ化物についての正しい知識の普及に努め、むし歯予防に対する保健指導を強化していく必要があります。
- ・かかりつけの歯科医を持つ割合は41.5%になっています。乳歯の時期から健康な歯を保持管理するため、日頃からかかりつけ歯科医を持ち、定期的に歯科診察を受けることを指導していく必要があります。

<予防接種>

- ・1歳6か月までに麻しん風しんの予防接種を受けた割合は93.2%、四種混合（第一期初回3回）の予防接種を受けた割合は97.8%となっています。
- ・出生児全数訪問時に予防接種の受け方について個別対応を行っています。
- ・虐待予防の観点からも、乳幼児健康診査、健康相談では接種状況の確認とともに、予防接種の必要性や効果等を再度説明し、接種率向上に向けて医療機関、保育園・幼稚園と連携し指導を強化していく必要があります。

<喫煙>

- ・子育て中の父親の喫煙している割合は、46.3%です。(図7)
- ・子育て中の母親の喫煙している割合は、9.2%です。(図8)
- ・前回の調査よりも、父親・母親の喫煙は減少しています。

図7 父親の喫煙状況

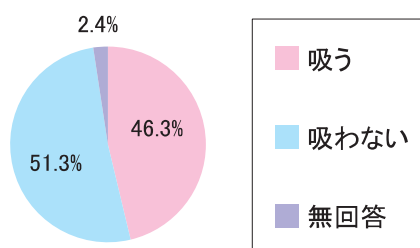
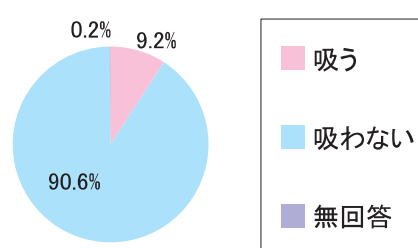


図8 母親の喫煙状況



<平成 30 年度健やか親子 21 アンケート>

- ・ 妊娠中の母親の喫煙していた割合は 3.4%です。(図 9)

図9 妊娠中の母親の喫煙状況



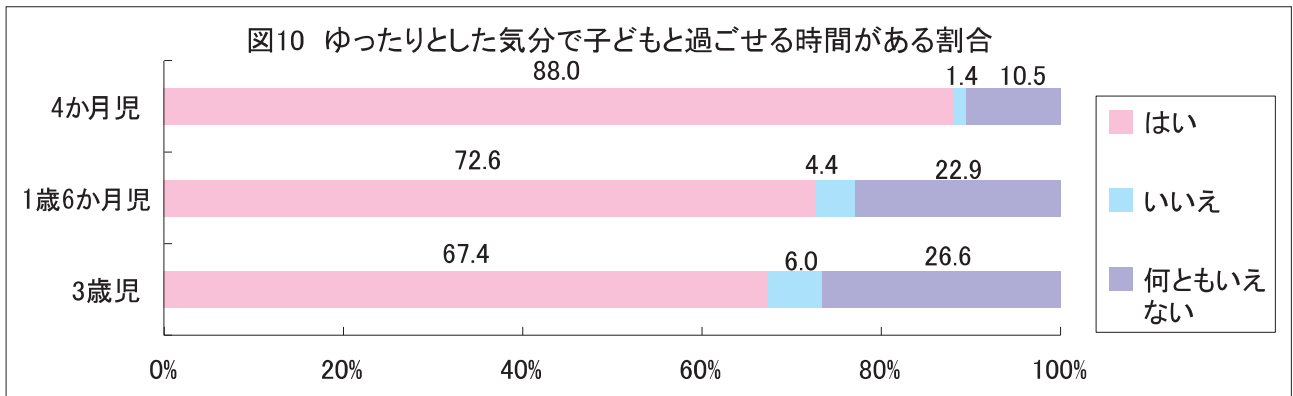
<平成 30 年度健やか親子 21 アンケート>

- ・ 妊娠中の喫煙は、低出生体重児の要因になることや流産・早産を招く原因となることから、母体や胎児の健康確保を図るため、妊娠届出時等に健康相談や個別対応等の指導を強化していく必要があります。
- ・ 出産後も受動喫煙（副流煙）により周囲へ及ぼす影響も周知し、家族の健康管理について指導を実施していく必要があります。
- ・ 妊娠前から喫煙リスクに関する知識を得られるよう周知していく必要があります。

●育児

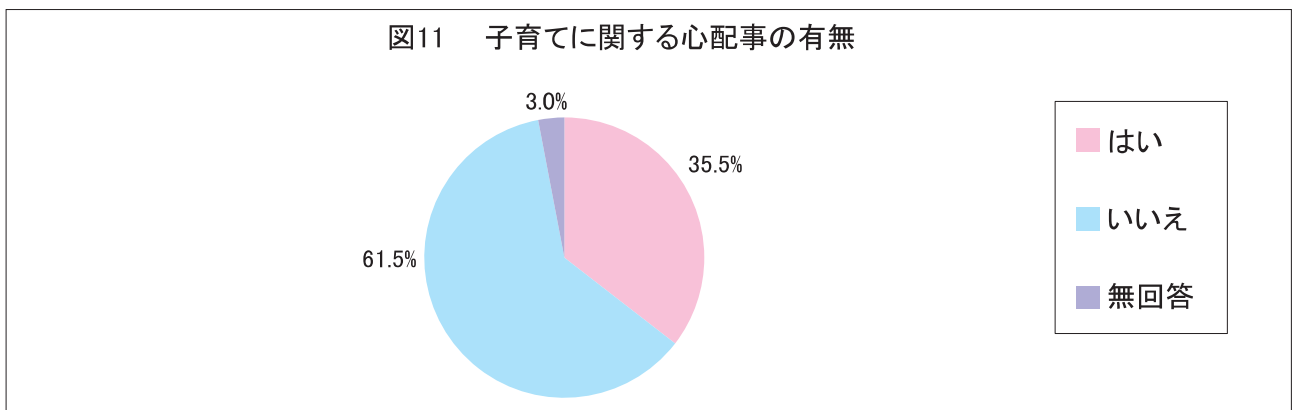
<育児状況>

- ・ ゆったりとした気分でお子さんと過ごせる時間がありますかという質問で、「はい」と答えた人は 4 か月児で 88.0%、1 歳 6 か月児で 72.6%、3 歳児で 67.4%と年齢が上がるにつれて減少しています。(図 10)



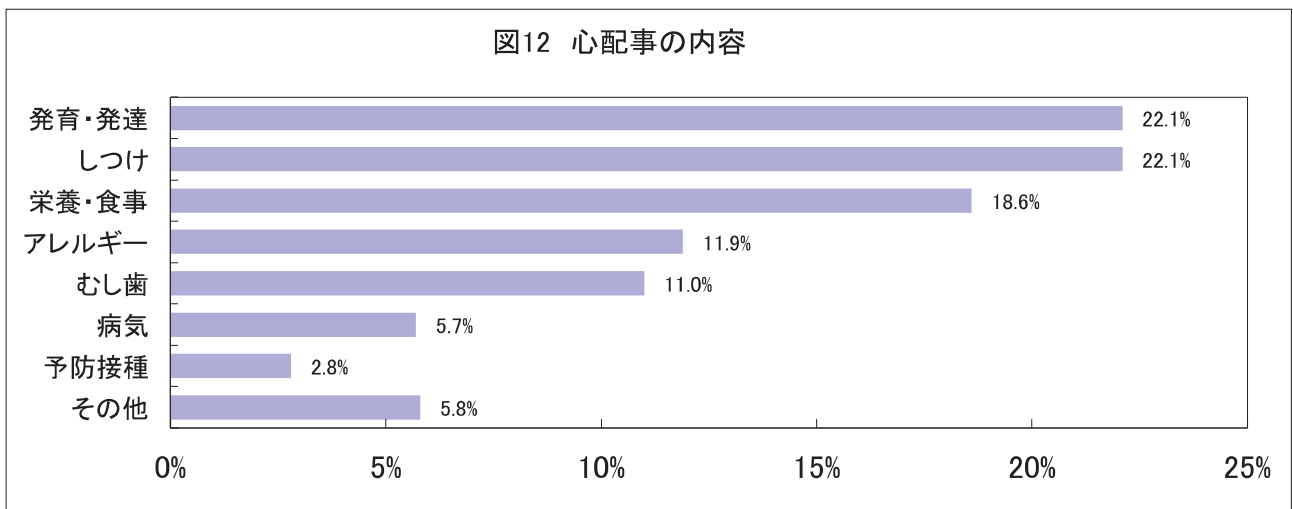
<平成 30 年度健やか親子 21 アンケート>

・子育てのことで心配なことがある人の割合は 35.5%となっています。(図 11)



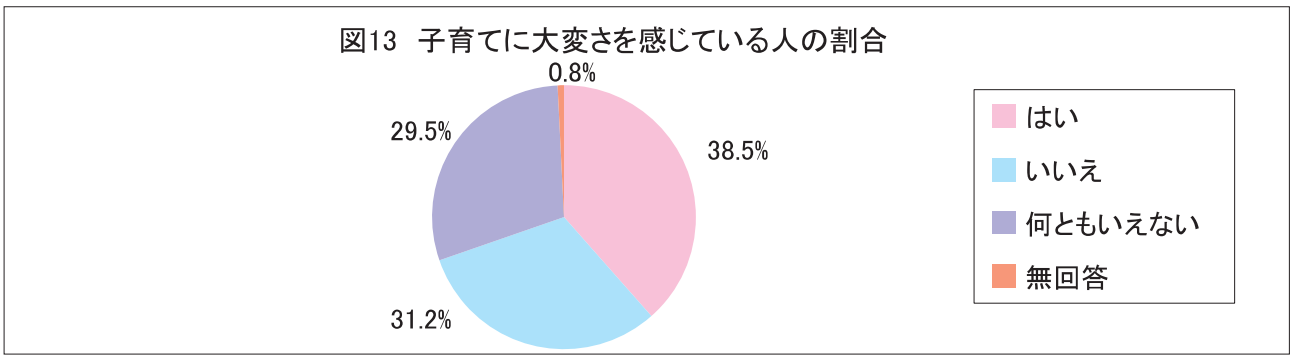
<令和元年度みどり市健康・生活アンケート>

・子育ての心配事の内容は、「発育・発達」、「しつけ」、「栄養・食事」、「アレルギー」の順に多くなっています。(図 12)「発育・発達」に対する心配が増えています。



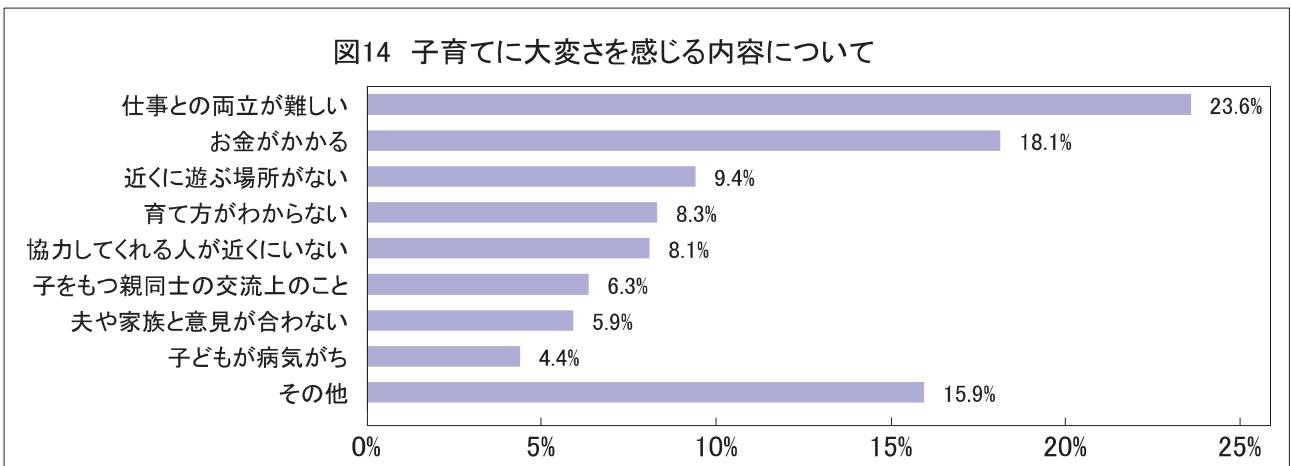
<令和元年度みどり市健康・生活アンケート>

・子育てに大変さを感じている人の割合で「はい」と答えた人は 38.5%、「何ともいえない」と答えた人は 29.5%、併せると 68.0%の人が何らかの大変さを感じています。(図 13)



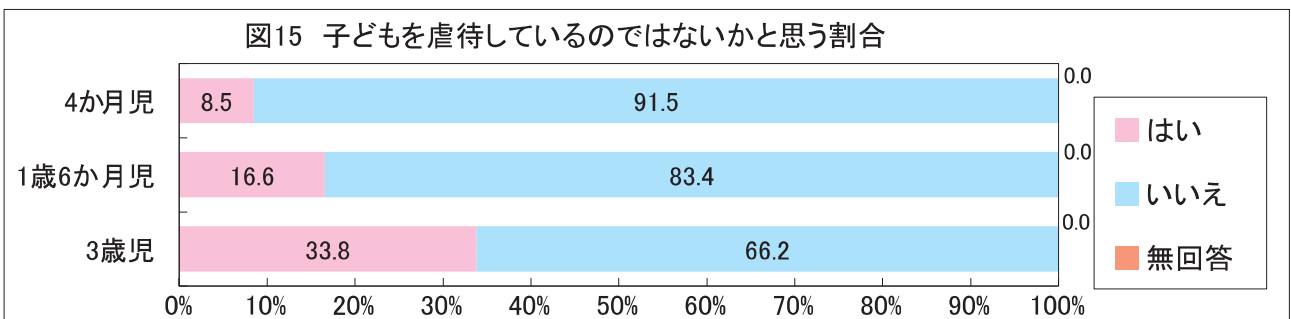
<令和元年度みどり市健康・生活アンケート>

- ・ 子育てに大変さを感じる内容は、「仕事との両立が難しい」、「お金がかかる」、「近くに遊ぶ場所がない」、「育て方がわからない」の順に多くなっています。(図14)
- ・ その他の内容として、子ども2人以上の育児や子どもの個性に合わせた育児の難しさ等がありました。



<令和元年度みどり市健康・生活アンケート>

- ・ 子どもを虐待しているのではないかと思う割合は、4か月児で8.5%、1歳6か月児で16.6%、3歳児で33.8%と年齢が上がるにつれて増えています。(図15)
- ・ 子どもを虐待しているのではないかと思う内容としては、「感情的に叩いた」、「感情的な言葉で怒鳴った」、「乳幼児だけを家に残して外出した」、「しつけのし過ぎがあった」等があります。



<平成30年度健やか親子21アンケート>

- ・ 子育てに関する心配事で、「発育・発達」に対する心配が増加しているのは発達障害について社会的な関心が高まっている背景があると思われます。保健センター、保育園・幼稚園、医療機関等が連携を強化し、相談先の周知、子どもの発育・発達に応じた支援を充実させていく必要があります。